

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4472100595
法人名	医療法人 二豊会
事業所名	グループホームやまもも
訪問調査日	平成20年6月10日
評価確定日	平成20年7月10日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4472100595		
法人名	医療法人 二豊会		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地	国東市国見町小熊毛2695番地1 (電話) 0978-73-9000		
評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年6月10日	評価確定日	平成20年7月10日

【情報提供票より】(平成20年5月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月27日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤	人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要(平成 20 年 5 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82 歳	最低 71 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国見病院 岐部歯科医院 ふじがき歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 風光明媚な国東半島の美しい自然を背景に「グループホームやまもも」がある。ホームの傍には神社があり、地域住民が集ってゲートボールを楽しんでいる。利用者は参拝やゲームの見学など日常的に外出をしている。
- 地域住民のボランティア団体との交流や幼稚園児、小学生が訪れ、子供との触れあいを多くもっている。
- 利用者一人ひとりの思いや意向を大切にしたい取り組みとして「心のうた」

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果をもとに「改善計画シート」を作成し、全職員で取り組み改善に結び付けている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価票は全員で「サービス評価ガイドブック」を参考にしながら一項目づつ検討をし記入をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4) 運営推進会議の開催は2ヶ月に1回開催をしている。参加者は自治会長、老人クラブ会長、地域の女性代表、民生児童委員、家族、市役所介護保険課である。会議の内容は毎月テーマを決め、マンネリ化をしないように工夫をしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 毎月ホームだより「ひだまり」や個別に「やまももでの生活のようす」を作成し家族に送付している。又、電話や面会、運営推進会議などを通じて家族の意見を聞き、運営への反映が行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の婦人団体より「御詠歌」を教わったり、近くの神社の参拝やゲートボール場に出かけ地域住民との触れあいをもっている。また、子供たちの「花の苗」のプレゼントや、「遊戯」などのボランティアがあり地域との関わりを大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域のなかでその人らしく暮らし続ける支援として事業所独自の理念および運営の方針を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有は会議や日々のサービスの中でふり返り全職員が認識している。特に理念である「笑顔」「真心」「安心」「信頼」を大切にしたい支援である。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの傍には神社がありゲートボール場があり、日常的に出かけ地域住民との触れあいの場となっている。近くには幼稚園や小学校もあり、お花のプレゼントや遊戯の披露がある。また、地元の御詠会に月1回参加をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票の作成は、全職員で「サービス評価ガイドブック」を参考にしながら一項目ずつ押さえている。また、前回の外部評価をもとに改善シートを作成し職員会議で話し合い実践に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、自治会長、老人クラブ会長、地元女性代表、民生児童委員、家族代表、市役所介護保険課の職員の参加により、毎月テーマを決め、充実した会議を開催している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は市民病院や介護保険課、市立の福祉施設、地域包括支援センターとの関わりを大切にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、発行をしている「ひだまり」や「やまもでの生活の様子」や健康状態、現金出納簿を定期的に送付している。また、面会や電話で連絡を了承を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口や苦情箱は設置している。また、面会や運営推進会議(家族の代表の参加)などを通じて、利用者、家族の意見や要望を聞いて、運営に反映をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には利用者や家族に混乱が生じないように報告をしている。また、異動に対して、引継ぎを行い支障のないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象にした研修は医療法人内で年に2回行っている。また、全職員が各委員会に(感染症、レクリエーション、教育、事故、個人情報などの委員会)所属し、毎月委員会に出席をし、学んだことを全職員に報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームが2ヶ所あり、互いに連携をもち意見交換などはしているものの、同業者との訪問研修や事例検討会などは行なわれていない。	○	事業者同士が互いに施設訪問で情報交換や事例検討会などで交流を持ち、さらにサービスの質の向上に努めることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスが利用できるようにと、家族や本人が見学に見えられ利用者や職員と触れあっている。馴染みの関係を構築した上でサービス利用に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の潜在能力を見出し、多くの活性化メニューに取り組み(園芸、心の歌、片付け、ゲーム、パズル)利用者と職員は喜怒哀楽を共にし、寄り添うケアを提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、表情や触れ合いの中から利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報の共有を図っている。また、家族からの情報をもとに一人ひとりの思いを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「その人らしい生活」が送れるようにと、チームで話し合いを行い、職員のアイデアを反映した利用者本位の介護計画書である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の見直しは、状態変化時にはその都度行なっている。しかし、介護計画書の期間に沿った定期的な見直しは出来ていない。	○	介護計画書に対して、モニタリング、評価を行い、カンファレンスを経て見直しの介護計画書の作成が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的に医師による回診が行われている。また、状態変化時は病状に沿って医療との連携を図り受診の支援を行っている。また、一人ひとりの利用者の要望に応じて外出支援など柔軟な対応となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に沿って、適切な医療が受けられるように常にかかりつけ医との連携が図られ、受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の支援として、医師、家族、事業所の話し合いのもとで支援をしているが、重度化や終末ケアに対して家族との確認書は交わしていない。	○	重度化や終末ケアに対して、早期の段階において話し合いを行い確認書を交わす事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを大切に、常にやさしい声かけや気配りを大切にしている。排泄支援では、全利用者の排泄のパターンを把握しており、一人ひとりの誇りを大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望や希望を大切に、無理強いをせず、一人ひとりのペースに沿ってその人らしい生活になっている。(歌を楽しむ方、パズルを二人で楽しむ方、食器を洗う方など)		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園に多くの野菜を植え、時にはメニューに取り入れている。また、野菜の皮むきや配膳、下膳、食器洗いなどを手伝い、和やかな食事の雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行いそれぞれの希望に沿って入浴の支援を行っている。特に、安心、安全を大切に手摺りや段差などの配慮がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの潜在能力を活かし、役割、出番がある。歌の上手な方に対して、日頃、「心のうた」のグループワークで練習した成果を法人内のイベントに出場するなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社の参拝やゲートボール場の見学、また、川に沿って鯉を眺めながら散歩など、日常的な外出支援となっている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を正しく理解しており、居室や玄関の鍵は掛けておらず、利用者は自由に出入りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練の計画書を消防署に提出をしており、毎月、月末には避難誘導訓練をしている。地域住民が参加してもらえるよう自治会に協力を得ている。また、備蓄は法人内に用意をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は医療法人の栄養士が関わっている。また、食事、水分の摂取量は記録している。また、利用者の共用空間に常時水分補給が出来るように用意をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感が漂うお花や壁には利用者の作品や思い出の写真を掲示している。居心地のよい共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの好みを活かし思い出の写真や、季節の作品を飾っている。また、利用者や家族と話し合いながら居心地よく過ごせる居室作りを目差している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームやまもも
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	大分県国東市国見町
記入者名 (管理者)	井 上 正 雄
記入日	平成 20 年 5 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が本位の支援を基本に、地域との支えを大切に、住み慣れた地域で暮らし続けることの支援を柱に掲げ、運営上の方針や目標を明確化し、毎月の職員会議で介護職と意思統一を図り、毎日のミーティングで日常的に具体化・共有化を図り、ケアの充実・サービスの向上を図っています。	○ 地域と連携しながら、利用者本位のサービスの向上に努めたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で基本理念の見直しを行い、「真心」「笑顔」「安心」「信頼」の事業所独自の理念をつくり、毎日の暮らしの中で理念の実践が図られているか日々確認し取り組んでいる。	○ 全職員で理念を共有し、理念の実践に向けて取り組みます。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議で概要や理念を協議し実践に繋げている。新聞「ひだまり」を毎月発行し、ご家族や民生委員や地域に配布することにより、地域の人々に幅広く理解してもらえるよう取り組んでいる。	○ これまで通り、運営推進会議を有効活用して概要や理念を協議し実践に繋げていきたい。新聞「ひだまり」を幅広く配布し地域の方々へご理解を賜りたい。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	以前から知り合いの方々ばかりであり、地域住民の一員として町内会班にも加入し、お接待の行事を一緒に行ったり、隣近所の方よりお野菜の苗を頂いたり、老人会・婦人会の皆さんが常に気軽に立ち寄っていただき触れ合っています。	○ 地域住民の一員として行事等を一緒に行ったり、隣近所の方や、多くの皆さんが気軽に立ち寄っていただき触れ合いを大切にしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児・小学生等の来訪があり、お遊戯やお花のプレゼントを頂いています。また、地元の人々と毎月21日御詠歌に参加し交流を深めるようにしています。また、時々お宮参りやゲートボールの見学もしています。	○ 行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進委員に地元老人会・婦人会の代表が加入され協議しています、今後は地域に役立ち支え支えられる関係を構築したいと思っています。一つは高齢者問題や認知症の総合的な相談窓口を開放したいと考えています。	○ 今後の課題の1つです。認知症の相談を受けたり、職場体験等の受け入れも積極的に行っていけるように努めます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義や内容を全員で把握確認し、サービス内容の改善とサービスの質の向上及び処遇の向上に努めています。外部評価を活かした改善策や気付いた点を職員会議及びミーティングで報告し検討を加え実践に繋げる様に努めています。	○ 評価の意義を共有理解し、実践へ繋げて行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、「やまもの生活の様子・毎月の職員会議録・グループホームの運営基準」等の報告を行うと共に、馴染みの環境の中で安心した生活を支える利用者本位の支援とサービスの向上について話し合い意見を頂いています。	○ 地域との連携・馴染みの生活環境の中で安心した生活を支える利用者本位のサービスの向上に積極的に努めます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員に市役所介護保険係が加入され、運営推進会議の内容等について共有と連携を保ちサービスの質の向上に取り組んでいます。地域包括支援センターや市役所介護保険係とは常に連携・連絡を取り合っています。	○ 市町村・包括支援センターと運営の実態を共有しながら、運営やサービスの向上に繋げて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修会に参加し、内容を共有・理解してきました。今後も研修会等を通じ理解を深めて行きます。	○ 研修会等に参加し、内容を共有しながら理解を深め、活用できるように努力します。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	全職員研修で虐待防止についての研修を受け、虐待防止に関する理解を深め共有しながら、全員が常時虐待防止の実践に取り組んでいます。	○ 虐待防止についての研修や勉強会を通じ、実践に繋がりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約の内容・重要事項の説明をしています(特に、ご利用料金・利用者の権利等)の内容説明を十分行いご理解・納得を得ています。また、常時疑問点等があれば随時伺い理解を図っています。	○	契約関係について、利用者や家族等の不安、疑問点をお尋ね、十分な説明を行いご理解と納得を得るように努めます。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口にご意見箱を設置しています、また、ご家族の面会時には常時、要望・苦情について伺っています。要望・苦情等があれば直ちに、職員全員で検討し、改善を図り、結果を入居者様・ご家族様にご報告するようにしています。	○	利用者の立場に立って意見や要望を傾聴し、改善を図り、それらを運営に反映させるように努めます。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「ひだまり新聞」や「やまもでの生活の様子」で生活状態をお知らせしています。健康状態については必要に応じ随時ご家族様へ詳細に報告しています。一人の方の金銭管理は金銭出納簿を明示し、毎月コピーを送付しています。尚、品物等の購入は、その都度電話でご家族に了解を得てから購入しています。	○	今後も、利用者の暮らしぶりや健康状態等について、家族へ随時報告をします。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、苦情・要望等に対応する常設の窓口・担当者の設置を伝えています。面会時には常時、要望・苦情を伺うようにしています。苦情を頂く事は少しでも改善が出来るのをお願いしています。常に、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めています。	○	運営に関する家族等の貴重なご意見を反映して、サービスの質の確保・向上へ繋げて行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には、職員会議でより良い運営に関する基準・運営方針・資質の向上・処遇の向上等について十分議論しています。また、毎日のミーティングで運営のあり方等気付いた点について意見を出し合い実践に努めています。	○	運営や管理に関する職員の意見を傾聴し、働く意欲や資質の向上に繋げたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	施設長は状況に応じた柔軟な対応ができるようにシフトに入っていない為、利用者の状況の変化に応じた体制が取れるようにしています。	○	利用者や家族の状況の変化、要望に対し柔軟な対応ができるよう努めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時は必ず入居者、ご家族にきちんと紹介しご理解の上スムーズに移行できるように努めています。利用者一人ひとりに寄り添い常に援助し絆で結ばれています。ご家族との信頼関係を築く為にも職員を固定化し安全で安心して生活できるようケアの充実に心がけています。	○	利用者と職員の馴染の関係を構築し、サービスの質の確保を図りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員対象の研修では処遇の向上を目指した研修が毎月開催されています。また、各委員会研修にはそれぞれが参加し記録してミーティングで発表し資質の向上に努めています。あらゆる研修会に積極的に参加しています。	○	今後も職員研修に全職員が参加し、ミーティング等で共有し資質の向上とケアの向上を図りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療法人としてグループホームが2ユニットありますので、常に連携を取り合いサービスの向上に努めています。病院や包括支援センターやケアマネ連絡会等で相互に活動の内容話し合い相互に交流を深めています。	○	同業者との交流を通じ、サービスの向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会議やミーティングで明るく働きやすい職場づくりに専念しています。利用者のお茶の時間帯に合わせて休憩を取る等、短時間でも心身をいたわり休める体制づくりに気配りしています。	○	今後の課題として、日常の生活面で職員のストレスや悩みを把握するように努めます。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各種研修会に運営者が出席し意見を聞き実態を把握しています。また、週1回の回診日に院長が来訪し業務や勤務状況、職員個々の把握に努めている。	○	職員の業務や悩み等を把握し、向上心を持って働けるように努めて行きたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の相談時には必ずご本人やご家族様の不安や困っている主訴を把握し、思いを受け止め安心して入居できる関係づくりに一生懸命努めています。利用者様が安心して生活が営まれる信頼関係を構築しています。	○	利用者様が安全で安心した生活が営まれる信頼関係を構築したいと考えています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の相談時には必ずご家族の希望や不安や困っていることを「傾聴」し、思いを受け止め安心して信頼関係づくりに努めています。	○	信頼関係づくりに専念したいと考えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○	信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるように努めたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になれ、徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○	人間関係を築きながら望ましいサービスの提供に努めたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	安心と安全で寄り添い、共に支え合う関係が出来るように努力します。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○	利用者の様子や職員の思い等の情報の共有に努め、本人と一緒に支える関係を構築して行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○	本人との繋がりを深めていけるよう、絆を大切に、なるべく行事にご家族を誘いたいと考えています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○	住み慣れた地域で、安心と信頼に向けた関係づくりに専念して行きたいと思います。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	○	毎日の食事やおやつ、レクリエーション、お掃除等を通じ、利用者同士がお互いに助け合うよう働きかけていきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入所者との絆を大切に常に施設の開放に努め、サービスの利用が終了しても、遊びに来てもらう等、引き続きお付き合いが出来連携が保たれるように心がけています。	○ 施設の開放に努め、サービスの利用が終了しても、遊びに来てもらう等、引き続きお付き合いが出来るように心がけ、関係継続への支援に努めたいと考えています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日寄り添い関わり合いの中で談話しながら、表情や言葉で把握に努めています。また意思疎通が困難な方には、本人の状態を良く観察し意思疎通を図っています。必要に応じてご家族からの情報を得て、本人本位を基本に生活全体のアセスメントを支援しています。	○ 一人ひとりに寄り添い関わり合いの中で意思疎通を図り、本人本位を基本に生活全体のアセスメントを支援したいと考えます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴や既往歴等をお伺いしていますが、ご家族の面会時や、ご本人より日々のお話しの中で今までの生活歴や既往歴を伺い把握に努めています。その人らしさへの気づきを基本としています。	○ 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めて行きます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の暮らしの中で、出来ないことよりも一人ひとりが「出来ること」の把握に努めています。個別にこだわるケアの中から、心身の状態や残存機能・残された力を見抜き、その人らしさへの気づきを最優先にその人全体の把握とケアの充実を図っています。	○ 毎日の生活の中で、「出来ること」に注目し、一人ひとりの全体像の把握に努力したいと思っています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位にその人らしい暮らしを継続するためのケアマネジメントに努めています。ご本人やご家族の日ごろのかかわりの中で思いや意見を伺い、本人がより良い暮らしが出来るように介護計画の作成に努め、全職員で意見交換やモニタリングを含めカンファレンスを行っている。	○ ご家族の面会時や、ご本人より日々のお話しの中で思いや意見を伺い、心あるケアが出来るように介護計画の作成に努めます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人がより良く暮らし続ける為に、介護計画とサービスが合っているかを把握しています。状態が変化した場合は本人・ご家族と話し合い要望に応じて随時検討見直しを図るようになっています。	○ 本人の心身状態を把握し、本人に即した介護計画の見直しを行い、モニタリングを含め介護計画の作成に努めます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○	個別記録簿の情報を共有しながら、ケアの充実・実践に結びつけ介護計画の見直しにも活かすように努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援に努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○	地域と連携しながら、利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう支援します。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	○	必要に応じ適切に事業所以外のサービスと繋げるように努めます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○	地域包括支援センターと常に協働して行きます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○	医療法人二豊会(国見病院)の医療体制が整い緊急時等の対応も整っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療法人にて、病院とは常時連絡が取れ医療が受けられるようになっています。外科についても大学病院より週2回ほどDrが来られ受診できる為に相談・支援ができます。 ○	医療法人二豊会(国見病院)の医療体制が整い緊急時等の対応も整っています。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療法人にて、病院とは常時連絡が取れ医療が受けられるようになっています。24時間体制にて看護師がいる為、気軽に相談が可能です。 ○	医療法人二豊会(国見病院)の医療体制が整い緊急時等の対応も整っています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、本人が安心して過せるように支援情報を提供し、毎日職員が見舞うようにしています(洗濯物等を取りに行く)。Drから回復状況・退院等の情報を頂き、ご家族とも連絡をしながら速やかに退院支援を行っています。 ○	医療法人二豊会(国見病院)の医療体制が整い緊急時等の対応も整っています。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	毎週の回診時がある為、早い段階から院長に相談し必要に応じ指示を頂いています。本人やご家族の意向を確認しながら、全員で話し合いの方針を共有し、最良の支援に繋げています。 ○	本人やご家族の意向に沿って、事業所が対応しうる最大の支援に努めます。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	院長の指示を得ながら本人やご家族の意向を踏まえ対応を図っていきたい。これまで重度化や終末期の入居者様がホームで暮らしていく事は今までではなかった為に、まだ取り組んでいません。今後も医療法人二豊会(国見病院)の医療機関と連携します。 ○	本人やご家族の意向を踏まえ、適切な対応を図り、医療法人二豊会(国見病院)の医療機関と連携します。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所等に移られる場合は、プライバシーを考慮しこれまでの暮らしが損なわれないよう、きめ細かい連携を心がけています。必要に応じアセスメント・ケアプランや支援状況等の情報提供に努めています。 ○	他の事業所等ときめ細かい連携を心がけ、必要に応じアセスメント・ケアプランや支援状況等の情報提供に努めます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月の職員会議で意識の向上を図り、一人ひとりの尊厳・プライバシーを損ねない対応の徹底を話し合い、常時申し送りにより、優しさ・言葉使い・気配り等の徹底に努めています。	○	職員の意識の向上を図り、一人ひとりの尊厳・プライバシーの確保の徹底に努めます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者と寄り添い支え合い、表情を理解し読み取り希望や要求等を尋ねて決めています。全ての面で押付けはせず常に入居者様に納得して頂き実施しています。10時・3時はお茶タイムでお茶等飲み和やかに過ごせる様支援しています。	○	利用者と寄り添い支え合い、全ての面で押付けはせず、自分で納得しながら暮らせるように支援して行きます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位で一人ひとりの尊厳を基本として支援を行っています。本人の要望や希望を尊重し、出来るだけ個別ケアを目指しています。寄り添いながら生きることを支援するように努めています。	○	利用者本位に一人ひとりの生活リズム・個別ケアを充実させ、寄り添いながら生きることを支援するように努めます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や身だしなみやおしゃれを個別に支援しています。行事に合わせて服装やお化粧等のおしゃれを楽しんでもらっています。理容については美容師さんが来訪してカットをお願いし、皆んなおしゃれに大変喜んでいきます。	○	身だしなみやおしゃれの支援を継続します。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事・ご馳走を大変楽しみにしています。配膳の準備や後片付け(配膳のさげ)等と一緒に準備しています。出来る方はおぼん・飯台を綺麗に拭く等常に手伝って貰っています。	○	相互に役割分担をしながら、一緒に食事を楽しむ環境づくりに専念したいと考えます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在は、お酒・タバコを好む方はいませんが、自宅に居た時と同様に、なじみの飲み物・おやつ類があれば尋ねて、日常的に楽しめるように努めています。	○	特に強制はしていません。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を確認し、尿・便意がない方等、排泄パターンの把握等チェックを確認し、トイレ誘導によりトイレで排泄ができるように支援しています。	○ 気持ちよい排泄の支援にスタッフ全員で取り組みます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴パターンを決めていますが、入浴の希望があれば本人の希望に沿って入浴をさせています。入浴には、職員の全面的な介助により安全に安心して入浴が楽しめるように努めています。	○ 安全で安心して楽しい入浴ができるよう支援して行きます。また、浴槽に取っ手を設置し、安全に入浴できるようにします。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日光浴や散歩やボール遊び等日中は野外活動を多く取り入れ活動するように努めています。また時々気持ちよい休憩を取るようにしています。寝つけない人には寄り添い、ゆっくり眠れるように工夫しています。	○ なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれ昔培ってきた得意分野・趣味等活かしながら楽しく過ごせる様工夫しています。歌や・パズル・カルタ・お掃除・野菜刈いじり等行い充実した生活が送れるよう支援しています。また、これから地域の行事・御詠歌にも参加します。	○ 日々の暮らしが楽しみ、張りのある充実した生活が送れるよう支援して行きます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最小限必要な買い物等はご家族に連絡し購入した後利用料と一緒に精算するようにしています。	○ 今後もご家族の協力を得たいと考えます。お金の所有については、今後検討したいと思います。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お元気で過ごして頂くためにも、なるべく日光浴や散歩やボール遊び等日中は野外活動を多く取り入れ活動するように努めています。近くのお宮参り等とても喜んで頂いています。	○ 日中は野外活動を多く取り入れ、充実した生活が営まれるよう支援して行きます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	時々気分転換に遠出のドライブで、風光明媚な長崎鼻等へかけています。運営推進会議でご家族代表の方を中心に家族的な活動を今後検討し、家族と一緒に活動する機会をつくりたいと考えています。	○ 思い出に残る、自然環境・風光明媚な所に出かける支援や家族と一緒に活動する機会を構築したいと考えます。今後海浜公園等に出かける計画をしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○	色んな面で、本人のよりどころとすることを個別に支援します。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○	馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう努めます。
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○	職員の資質の向上を図り、正しい理解を共有し、身体拘束がなくなるケアに全員で取り組みます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○	今後の課題です。鍵をかけずに見守りを重要視するよう検討したいと考えます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○	利用者に寄り添い、安全安心を最優先にきめ細かなケアに努めたいと考えます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○	危険防止を第一に、物品の保管・管理に努めます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○	医療事故防止の研修会等を通じ、職員間で内容を共有し、実践に繋げる様、努めて行きたいと考えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○	応急手当の勉強会を実施し、急変時に対応できるように努めます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	安全を第一に、毎月月末に避難誘導訓練を実施し、自主避難ができるように体制を整備したいと考えています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	○	家族との話し合いにより、抑圧感のない暮らしの支援に努めていきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○	一人ひとりに寄り添い、体調の変化や異変の早期発見に努めたいと考えます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○	一人ひとりが使用している薬の服薬について、処方箋等で理解し服薬の支援と症状の変化の確認に努めます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○	1人ひとりの暮らしの全体の中から、自然排泄を促すよう努めます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○	手洗いの励行と毎食後の歯磨きの励行に努め、常に清潔を支援します。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量は、毎日ケア実施記録に記録し、栄養バランス・水分不足等が起こらないように、状態を把握できるようにしている。	○ 栄養バランス・水分不足等が起こらないように、常に一人ひとりの状態を把握するように努めます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会等の研修報告を受け全職員で学習し予防対策に専念しています。インフルエンザはご家族の同意のもとに、早めの予防接種を行っている。ノロウイルス対策としては、手洗いの励行・ペーパータオルの使用・手摺拭き等を徹底実行しています。	○ 感染委員会等の研修報告を受け全職員で共有・学習し、予防対策に専念して行きます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生委員会等の研修報告を受け全職員で、台所・調理器具等の清潔や衛生管理方法等徹底しています。特に、まな板や布巾やカップ等は常時漂白し、清潔に心がけ、食材は新鮮なうちに使用し、冷蔵庫の残り点検・掃除をまめに行っています。	○ 衛生委員会等の研修報告を受け全職員で共有し、衛生管理に努めます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者や訪問者の視点に立ち訪問しやすいように、常に玄関先にプランターを置き、季節の花で明るい感じの玄関になるように工夫しています。また毎朝玄関周り等を清掃し清潔感を保っています。	○ 利用者や地域の方々や訪問者が、安心して出入りできるよう清掃等し、工夫します。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に安心感と明るさと心地良い空間づくりを工夫し、壁等は常に季節感を漂わせる作品を利用者様と一緒に飾っています。	○ 生活の場として、居心地よい共用空間づくり、廊下・カベ等の装飾を工夫します。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々の状態の変化等に配慮して、席替えやソファや畳等を利用して、思い思いにくつろげるように気配りしています。	○ 一人ひとりの居場所づくりや、自由に思い思いにくつろげるように気配りしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせる居室・環境づくりに、本人や家族と相談しながら馴染みの物や好みの物を必要に応じ持ってきて頂いています。 ○	本人やご家族と相談しながら必需品等必要に応じ持ってきて頂いています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えや温度調整に心がけています。トイレは換気扇と消臭剤を使用し、オムツ等の汚物入れの蓋に消臭剤を付けたりして、悪臭を防ぐ工夫をしています。エアコンで快適な温度調整も随時行っています。 ○	生活環境・安全な環境づくり心がけています。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保と自立への配慮として、廊下・トイレの中に手すりを新たに設置しました。原則的にバリアフリーであり、わずかな段差や家具等の配置により、躓いて転倒につながる原因はないかは常時見守りチェックをしています。 ○	身体機能を活かした安全な環境づくり、特に転倒防止等気配りしながら、自立した生活が送れるように努めます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	今まで、大きな認識間違いや判断ミスはなかったかと思いますが、部屋を間違える等は、時々あります。 ○	部屋のネームはありますが、もっと判りやすいように検討します。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場が広いので野外活動の場として使用しています。また、野菜畑も広いので四季折々の野菜を植えて楽しんでいます。 ○	外周りを利用して野外活動等、利用者が日常楽しんでもらうよう努めて行きます。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者の
		☐ ②利用者の2/3くらいの
		☐ ③利用者の1/3くらいの
		☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある
		☐ ②数日に1回程度ある
		☐ ③たまにある
		☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族と
		☐ ②家族の2/3くらいと
		☐ ③家族の1/3くらいと
		☐ ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)